子どもも大人も歴史と向き合おう

～レイシズム・歴史修正主義に抗(あらが)う～

歴史修正主義（historical rivisionism）という言葉をご存じですか？

第二次世界大戦からほどなくして、欧米ではナチスドイツによるホロコースト（ユダヤ人虐殺）を否定する論者が現れました。彼らは「歴史修正主義者（historical rivisionist）」を自称し、**「ホロコーストはユダヤ人による捏造だ」「イスラエルによる陰謀だ」「ガス室はなかった」「計画的になされたものではなかった」「ホロコーストなどよりソ連による虐殺の方が酷い」「虐殺されたユダヤ人が600万人というのは多すぎる。実際はもっと少ない」**など、ホロコーストを否定、あるいは矮小化しようとしました。歴史修正主義の登場により様々な議論・論争が巻き起こりましたが、結果的には歴史修正主義の敗北に終わります。歴史修正主義者の主張は学術的には全く相手にされず（実際、歴史修正主義者に歴史学者と呼べる人は皆無でした）、またドイツでは現在、**ホロコースト否定論はヘイトスピーチ（特定の民族に対する憎悪を煽動する表現）のひとつとされ、罪に問われます。**

歴史修正主義とヘイトスピーチ・レイシズムの親和性

ドイツでホロコースト否定論がヘイトスピーチのひとつとされていることからもわかるように、歴史修正主義とヘイトスピーチ、レイシズムには密接な関係があります。特定の人々への憎悪を煽り、排除を正当化するのに歴史修正主義は最適なツールのひとつです。たとえば今や、ヘイトスピーチの代名詞とも言える在特会の主張は次のような具合です。

「在日朝鮮人・韓国人は『強制連行されてきた』などとウソをつき、特別永住という『特権』を手にしている。」

上記の主張はほぼ全て間違いです。現在の在日コリアン（朝鮮人）の大部分はいわゆる強制連行が始まる前に日本に渡ってきた人およびその子孫であるのは統計からも専門家の研究からも明らかですし、「在日は強制連行されてきた」と主張している在日コリアンもほとんどいません。また特別永住資格は、戦前に「日本人」として日本に渡ってきた旧植民地（朝鮮・台湾）出身者に対し、その経緯を考慮してできたものであり、「特権」と呼べるものではありません。しかし、こうした事実を正確に知っている人はそう多くはなく、そのため、在特会の主張に対して「耳を傾けるべき部分もある」と思ってしまう人もいるのかも知れません。つまり、**歴史を知らないが故に歴史修正主義が一定の説得力を持っているようにみえ、そこにレイシズムが付け入るスキが生まれます。**そして、こうした状況自体が、攻撃対象であるマイノリティにとっては脅威そのものなのです。

（2枚目へ続く ➜）

（➜ 1枚目から続く）

歴史に向き合うことの重要性

日本軍「慰安婦」問題で、軍の関与を認めた河野談話は、問題とされる吉田清治氏の証言には依拠していないので、否定的に見直す必要など全くありません。

南京事件（日本軍による中国での南京攻略に伴う、多くの捕虜や民間人の殺害）についても、日本政府は「否定できない」として公式に認めています。

こういった慰安婦問題など、自国の負の歴史に向き合うことは、果たして「自虐的」で、「誇りや名誉を損なうこと」なのでしょうか。ここでアメリカにおけるひとつの例を挙げてみます。

日本と同じくアメリカにも様々な負の歴史があります。そのひとつが第二次世界大戦中の日系人強制収容問題です。当時10万人以上の日系アメリカ人や在米日本人が「敵性外国人」と見なされて強制収容所に送られました。自由のみならず財産も奪われた日系人達は戦後も苦しい生活を余儀なくされましたが、1988年、当時のレーガン大統領は日系人強制収容が誤りであることを正式に認めて被害者に謝罪・賠償しました。それだけではなく、この強制収容の事実を後世に伝えるための教育基金も設立されました。

こうしたアメリカの態度は**現在の慰安婦問題に対する日本の態度と正反対**と言えます。自国の過ち・人権侵害を率直に認めたアメリカの姿勢と、どんなに非難されても（慰安婦問題に対しては国連の自由権規約委員会はじめ、アメリカ・オランダ・フィリピン・台湾・EUなどの議会からも謝罪勧告が出されています）過ちを認めようとしない日本の態度。今やるべき事、これから進むべき道とは何か、もはや言うまでもないでしょう。

より良い未来のために、歴史に学ぶ

歴史認識の問題は、単に「過去」の問題に目を向けるということではありません。そこには現在につながっている問題もたくさんあります。たとえば現在、労働者としての権利を認められずに過酷な条件での労働を強いられている「外国人研修生」の問題が注目を集めつつありますが、この問題はかつての朝鮮人強制連行の問題に通じる点が多く見られます。またこれもよく話題 になる「ブラック企業」ですが、そうした企業と戦時中の日本軍の体質は驚くほど似ています。このような現在の問題を考える上で、過去の問題を見つめ直すことは非常に重要です。

歴史、特に負の歴史に向き合うことは「自虐的」でもなければ「後ろ向き」でもありません。被害当事者や遺族の人権と尊厳を回復する事は、全ての人の人権と尊厳が侵される事のない、より良い社会、より良い未来に繋がります。歴史を真摯に受け止め向き合うことが今、必要とされています。

▼ 参考書籍・サイト

▶【Book】『すっきり！わかる 歴史認識の争点Q＆A』　歴史教育者協議会（歴教協）［編］
▶【Book】『「慰安婦」・強制・性奴隷 あなたの疑問に答えます』　日本軍「慰安婦」問題webサイト制作委員会［編］　御茶の水書房
▶【Book】『「週刊金曜日」臨時増刊号 特別編集「従軍慰安婦問題」(2014/10/29号) 』　金曜日
▶【Web】　Fight for Justice 日本軍「慰安婦」-忘却への抵抗・未来の責任　http://fightforjustice.info/
▶【Book】『南京事件』笠原十九司[著]　岩波新書
▶【Book】『南京大虐殺否定論 13のウソ』南京事件調査研究会[編]　KASHIWA CLASSICS（柏書房）
▶【Web】　南京事件FAQ　http://wiki.livedoor.jp/nankingfaq/
▶【Book】『日本の植民地支配 -肯定・賛美論を検証する-』　水野直樹/藤永壮/駒込武［編］　岩波ブックレット
▶【Book】『植民地朝鮮と日本』　趙景達［著］　岩波新書
▶【Web】　朝鮮人戦時動員FAQ　http://seesaawiki.jp/w/gurugurian/
▶【Web】　「朝鮮人虐殺はなかった」はなぜデタラメなのか -関東大震災時の朝鮮人虐殺を否定するネット上の流言を検証する-　http://01sep1923.tokyo/
▶【Book】『未解決の戦後補償 - 問われる日本の過去と未来』　田中宏/中山武敏/有光健/他［著］　創史社

ARP Anti-Racism Project

Web ▶ http://antiracismproject.wordpress.com/
Twitter ▶ http://twitter.com/a_r_project
Facebook ▶ https://www.facebook.com/a.r.proj